



2019年2月1日

資料館通信 第74号

ふじみ野市立 上福岡歴史民俗資料館 埼玉県ふじみ野市長宮1-2-11 TEL 049-261-6065
大井郷土資料館 埼玉県ふじみ野市大井中央2-19-5 TEL 049-263-3111

大井郷土資料館開館30周年記念特別展

「大地に生きる～埼玉県指定畑作用具の世界～」

平成30年10月23日～12月9日



平成30年度の特別展は、大井郷土資料館を会場に同館に収蔵されている埼玉県指定有形民俗文化財「武蔵野台地北部の畑作用具」を紹介すべく実施いたしました。これは、大井郷土資料館の開館30周年および同資料の県指定25周年を記念すべく企画したものです。

これらの資料は昭和47年に発足した大井町（当時）の大井郷土研究会が中心になり、都市化・機械化が始まり使用されなくなっていった民具を保存すべく収集されました。

その後も徐々に追加して収集された資料は、武蔵野台地の畑作の有様をよく特徴づけ、体系的に収集されているものとして、平成6年3月に埼玉県教育委員会より434点が指定されました。



関連講座「民具レストア体験」からトウミの使用実演の様子

ふじみ野に明治時代がやってきた

上福岡歴史民俗資料館で平成31年3月26日より5月26日まで企画展開催

平成30(2018)年は、250年間にわたる江戸時代が終わりを告げ徳川幕府が倒された明治維新から150年目にあたります。明治維新は日本に近代化をもたらした歴史的に大きな節目になる出来事でありました。慶応3(1867)年に朝廷に政権を返上(大政奉還)してはいたものの徳川家はお強い勢力を持っており、慶応4(1868)年1月に京都で旧幕府軍と官軍(討幕派)が武力衝突したことに始まる戊辰戦争は、翌明治2年に北海道箱館(函館)五稜郭陥落での旧幕府軍の敗北で終了し、本格的に維新政府による支配が始まることとなりました。

1 江戸時代から明治時代へ

慶応4(1868)年3月、勝海舟と西郷隆盛の会談により江戸城は官軍に無血開城し、最後の将軍徳川慶喜は退去して江戸幕府は崩壊しました。7月に「江戸」は「東京」になり、8月の明治天皇即位大礼を経て9月に「慶応四年」は「明治元年」に改められました。

こうして明治時代は幕開けしたのですが、当時のふじみ野市域の人々はどのように新しい時代を迎えたのでしょうか。領主の川越藩主松平康英は新政府にすぐに恭順し、慶応4年正月から翌明治2年5月まで続く戊辰戦争の戦場になることもありませんでした。

江戸幕府に代わって日本を統治することになった新政府の政策を市域の人々が初めて身近に目にしたのは、おそらく村ごとに建てられた「五榜の掲示」と呼ばれる高札であったと思われます。

2 五榜の掲示

新政府は、慶応4年3月、幕府崩壊後の社会不安や治安悪化を抑えるために「太政官」の名前で高札(掟や禁止令などを記して人目を引く路傍に掲示された板)を各地に建てました。これらは一般に「五榜の掲示」と呼ばれ、5種類の高札(第一～第五札の通称がある)が建てられました。ふじみ野市内では鶴ヶ岡村に掲げられた第一から第三札が残されています。(大井郷土資料館蔵 ふじみ野市指定文化財)

第一札＝五倫道德(君臣の義、父子の親、夫婦の別、長幼の

序、朋友の信、天皇・家父長に対する忠孝)の遵守

第二札＝徒党・強訴・逃散による集団での謀議や要求の禁止

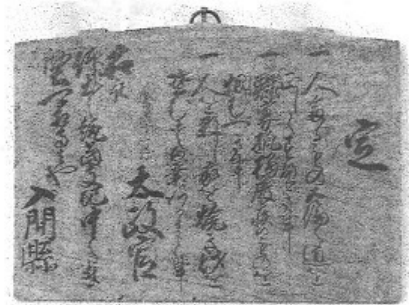
第三札＝切支丹(キリスト教)・邪宗門の禁止

第四札＝万国公法の履行と外国人殺傷の禁止

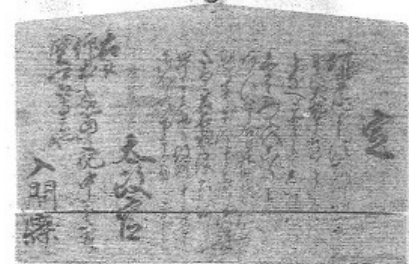
第五札＝住んでいる郷村からの脱走の禁止

第一から第三札と第五札は、治安維持と宗教統制をストレートに命じています。第四札は対外関係を重視する立場から万国公法に従うよう命じていますが、外交上の問題に発展しかねない外国人襲撃事件の発生を予防する立場から発せられたものであり、これも治安維持策の一環と考えられます。

全体として江戸幕府の社会統制や弾圧を継承はしていましたが、「旧幕府」の支配を象徴する高札の廃棄も命じており、五榜の掲示は新政府の権威を象徴するために建てられたと考えられます。



第一札



第二札



第三札

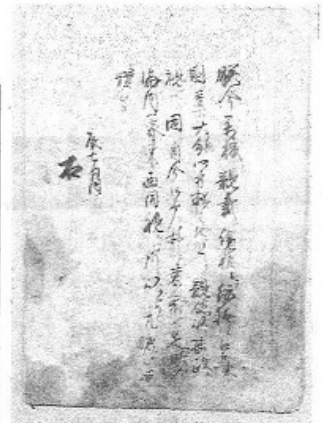
3 「江戸」が「東京」になる

慶応4(明治元)年7月に「江戸」を「東京」と改める天皇の詔書が出されたことが、大井宿本陣文書「御取締御用控壺番」(大井郷土資料館蔵 ふじみ野市指定文化財)により当地にも伝えられたことがわかります。

【意訳】

「私は、今自ら政治に関わることとなり、全ての国民をいたわっている。江戸は東日本一の大都市で、四方から人や物が集まる場所である。当然、私自らその政治を行うべきである。

これにより、以後「江戸」を「東京」と称する。これは、私が国の東西を同一視するためである。国民は私の意を意識して行動せよ。」



東京とする詔書

4 元号が「明治」になる

慶応4年9月、明治天皇の即位大礼にともない「慶応四年」を「明治元年」と改める新政府の改元の布告が出されました(「御取締御用控壺番」(同上))。明治時代の幕開けです。

江戸時代までは社会的な吉凶に左右されて元号が改められてきましたが、以後「一世一元の制」(君主一代ごとに一つの元号を用いる制度)が施行されました。

「明治」の意味は、中国の古い書物『易経』の「聖人南面而聴天下、嚮明而治」(聖人が南を向いて政治を聴けば、天下は明るく治まる)という文章によります。

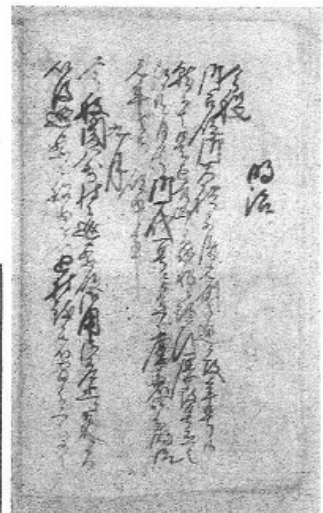
討幕を進めた公家の岩倉具視が松平慶永(元福井藩主)に命じて元号の案を作らせて籤にし、天皇が自ら抽選したといわれています。

【解説】 明治

今般

御即位御大礼被為濟先例之通被改年号候 就テハ是迄吉凶之象兆
二随ひ屢改号有之候得共 自今御一代一号二被定之 慶応四年明治
元年と被仰出候事

九月



明治改元の布告

5 戊辰戦争と興禅寺の地蔵(富士見市下南畑)

ふじみ野市近隣でも戊辰戦争の余波の事件が発生しました。隣接する富士見市下南畑興禅寺境内には、下南畑村まで逃亡して官軍に処刑された旧幕府軍兵士を供養したという地蔵菩薩像があります。

慶応4年5月15日、旧幕府を支持する彰義隊は上野寛永寺に立てこもって官軍と激突しましたが壊滅し四散しました(上野戦争)。

その残党で戦国時代の武士難波田氏ゆかりの者と称する一団が現れて、下南畑村の興禅寺を占拠したのです。岡山藩兵を中心とした官軍は攻撃を加え、捕らえた13人を5月21日に村境の「錫杖権現」(おしゃくじさま)の地で処刑したといわれています。

不穏な情勢は明治2(1869)年5月に北海道箱館(函館)の五稜郭が降伏して、戊辰戦争が終結するまで続きました。



興禅寺境内の地蔵

ふじみ野市の両資料館への資料の寄贈

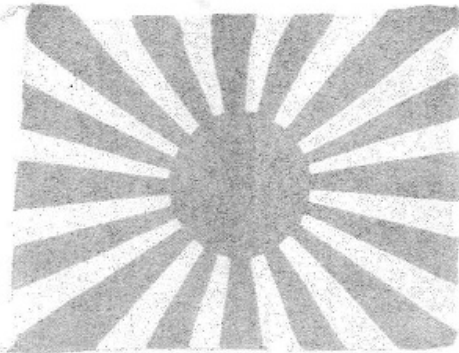
平成 30 年 7 月から平成 31 年 1 月まで次の方々より、各種の文化財資料を寄贈していただきました。紙上をもって厚くお礼申し上げます。

市立上福岡歴史民俗資料館分

9月23日	日の丸	17点
	旭日旗	48点
	満洲国旗	1点
	イタリア国旗	1点
	旗振り棒	9本
	市内 宮崎 清氏	
12月11日	第二次世界大戦全史 (DVD)	13巻
	市内 鈴木忠男氏	
12月14日	電熱器	1点
	市内 中里美子氏	
12月25日	ラジオカセットレコーダー	1点
	市内 中里美子氏	
1月16日	メンコ	203点
	市内 山城いづみ氏	



満洲国旗



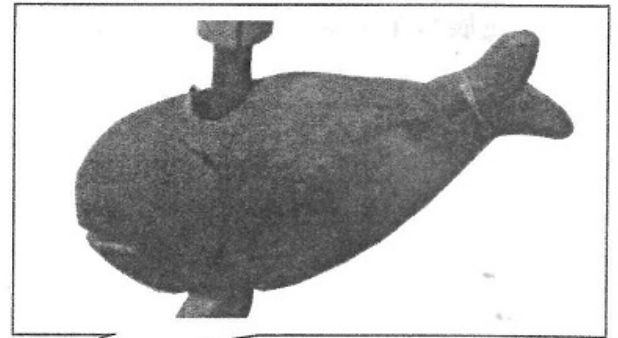
旭日旗



自在鍵

市立大井郷土資料館分

7月1日	衣類	6点
	市内 比嘉洋子氏	
7月2日	自在鍵 (魚の木彫り付き)	1点
	所沢市 藤崎樹則氏	
7月7日	黒電話	1台
	市内 松竹勝彦氏	
8月15日	召集令状 (昭和6年8月)	1点
	市内 抜井 泉氏	
9月6日	レコード他	11点
	市外 小川一代氏	
10月12日	教科書	2冊
	ニンジンダワシ	1点
	市内 抜井 泉氏	
10月15日	台ばかり	1台
	(おもり付き、50kg1個、20kg1個、10g2個)	
	市外 小俣浩明氏、小俣ひろこ氏	
10月31日	鋸	1点
	天秤はかり	1点
	市外 奈良原光衛氏	
12月10日	教科書	2冊
	市内 比嘉洋子氏	



(魚の木彫り部分)